

第8回山梨医学フォーラム

日時：2018年6月27日（水）19:00～20:30

会場：山梨大学医学部 臨床大講堂

〒409-3821 中央市下河東 1110 TEL：055-273-1111（代表）

謹啓

時下、先生方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度先生方の知識向上に役立つ情報提供の場として山梨医学フォーラムを開催させていただきます。

つきましては、ご多用とは存じますが、是非ともご出席賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら先生のご健康と益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

謹白

<特別講演>

座長：山梨大学大学院総合研究部 医学域 薬理学講座

教授 小泉 修一 先生

『幹細胞と遺伝子改変霊長類技術を用いた

精神・神経疾患研究』

演者：慶應義塾大学・大学院医学研究科委員長

慶應義塾大学医学部生理学 教授 岡野 栄之 先生

- ◇日本医師会生涯教育講座認定：9：医療情報（1単位）/0：その他（0.5単位）の対象となります
- ◇山梨県病院薬剤師会生涯研修委員会の承認を得て、生涯教育単位取得を予定しております
- ◇山梨県薬剤師会生涯学習委員会の承認を得て、生涯教育単位取得を予定しております
- ◇日本医師会産業医単位 基礎後期（2単位）/生涯専門（2単位）の対象となります

共催：山梨大学医学部 山梨大学医師会 山梨大学医学会
山梨県薬剤師会 山梨県病院薬剤師会 アストラゼネカ株式会社
後援：山梨医学会・山梨県医師会生涯教育委員会

第 8 回山梨医学フォーラム

幹細胞と遺伝子改変霊長類技術を用いた精神・神経疾患研究

岡野 栄之

iPS 細胞技術が誕生して以来 10 年が経つが、その医学・医療への応用は、再生医療にとどまらず、疾患病態解明や創薬にもおよび、益々注目を集める研究領域となっている。我々の研究グループは、iPS 細胞技術を用いた中枢神経系の再生と疾患研究を行っており、いくつかのものについては、その臨床応用が真近になって来ている。ヒトの精神・神経疾患の研究が困難である理由として、①疾患モデルマウスが必ずしもヒトの病態を反映しない、②ゲノムでの遺伝子変異と表現型の因果関係を証明することが難しいことがある、③剖検脳の解析だけでは、疾患の onset において in vivo で何が起きているかを知る事が困難である、④疾患感受性細胞（脳の細胞）への accessibility が低い、④病態の中核を構成する神経回路が、同定されていない事が多いなどの事が挙げられる。我々は、これらの点を克服するために、iPS 細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた解決を試みている。これ迄我々は、30 以上の精神・神経疾患患者より iPS 細胞を樹立し、病態を解析している。これらは、①小児神経疾患、②感覚器疾患、③精神疾患、④晩発性の神経変性疾患に分類出来る。本日は、ALS, アルツハイマー病、パーキンソン病などを中心に病態解析、創薬研究の成果について概説したい。遺伝子改変霊長類技術を用いた精神・神経疾患モデルの開発と脳科学研究についての最新データについて話したい。